

岩船先生
のアイデア ①

自己調整への意欲が高まる

ループリックを踏まえたICTの活用で

「話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する」(二年)

まず、ロイロノートのシンキングツールを活用して、話題を決め、材料を選んで整理し、話の構成を考えました(図1)。次に、評価の観点を書かれたループリックを示し(図2)、全体で目ざす姿を共有します。ルー

ブリックはA評価までしか示されていませんが、「S評価のスピーチとはどんな姿だろうか?」と問いかけることで、生徒はA評価以上のスピーチの姿を考えて言語化し、より高い目標を設定することができます。

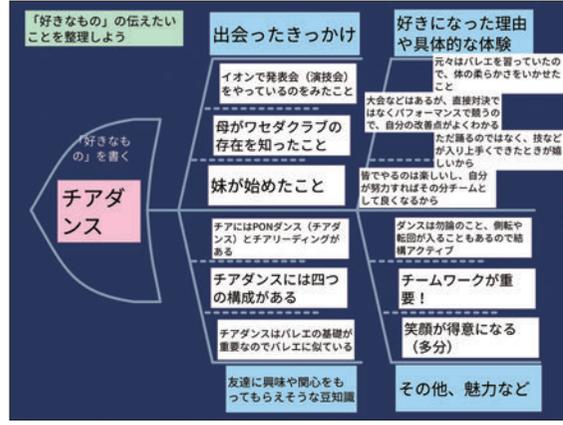


図1 フィッシュボーンでスピーチ内容の整理をする

評価規準	話し方	表情や態度	内容の説得力
S評価 (3点)	A評価の内容+αが見られた発表が「S評価」になります。どんな発表が「S評価」になるかを考えてみよう!		
A評価 (2点)	声の抑揚や話す速度などに工夫が見られ、言葉がはっきりとしていて聞き取りやすい話し方をしている。	聞き手に視線を向け、間、具体的エピソードなどに「初め」から「中」まで「終わり」の文章構成が整理されている。	聞き手の反応を確かめながら「初め」から「中」まで「終わり」の文章構成が整理されている。

図2 ループリック

練習は、グループ内で発表者、聞き手、撮影係と役割分担をして行いました。こうすることで、発表者は聞き手の反応を確かめたり、動画で自分のスピーチを客観的に分析したりしながら練習することができ、さらに、ループリックで目ざす姿を仲間と共有し、互いに助言し合うことで、よりよいスピーチの姿を具体的にイメージし、それに向かって自己調整を

重ねていくことができました。

スピーチの会では、ループリックに沿って相互評価を行いました。教師は、Google Classroomを使って、あらかじめGoogleフォームで作成した評価フォームを配信します。ここでのポイントは、生徒が評価するフォームにループリック(図2)を挿入しておくことです。こうしておくことで、ループリックを基に仲間のスピーチを評価しながら、自然と自分が目ざすスピーチを意識するようになります。また、評価フォームに、「仲間への一言感想」や「よいと思ったこと」などの項目を設けることによって、発表者に対して即時的に評価や感想をフィードバックできるのもICTの強みといえるでしょう。

*1 オンライン学習システム。クラスの管理や課題の作成、共有などが可能。
*2 アンケートフォームなどを簡単に作成できる無料ツール。

岩船先生
のアイデア ②

説明的な文章の読みが深まる

可視化・共有ツールの活用で

「モアイは語る——地球の未来」(二年)

導入では、Mentimeter^{*3}のワードクラウド機能を使います。モアイについて知っていることやイメージなどをタブレット端末に入力すると、自分の考えや、仲間の考えがリアルタイムでモニターに映し出されます(左写真)。導入で考えを可視化し、共有することで、動機づけが促され、主体的に

文章を読むことにつながります。初読の感想は、ロイロノートやGoogle Jamboard^{*}に書かせることによって、即時的に意見や疑問点などを共有することが可能になります。

次に、文章を要約することを目的として「作品の内容を紹介する『Q&A集』」

を作ろう」という課題に取り組みました。生徒は本文の内容を確かめながら、「なぜ」から始まる「Q(質問)」とそれに対する「A(答え)」をタブレット端末に打ち込んでいきます。仲間の「Q&A集」をグループで確認したり、互いに解き合ったりすることで、「構造と内容の把握」が促進されます。また、「筆者が最も伝えたい事柄について触れているQ&Aを発表しよう」という活動を位置づけることで、主張と例示の関係に気づくことができます。

文章をさらに読み深めるために、「筆者の主張を伝える工夫を考えよう」という課題に取り組みました。まず、プレゼンテーション作成アプリの共同編集機能を使い、グループの仲間と協働しながらスライドに「筆者の工夫」をまとめていきます(図3)。次に、それを基にプレゼンテーションを行いました。論理構造や表現など、さまざまな観点から見つけた「筆者の工夫」を教室

問いの順番がそのまま時の流れに。

	誰が	いつ	どうやって	なぜ	その後
答え	ポリネシア人	突然の製造開始	ヤシの木をころとして運搬	森の消滅	食料危機！文明滅びる
時	5世紀頃	11世紀頃	6世紀頃からあった	7世紀から	17世紀後半から18世紀前半

図3 生徒が制作したスライド

全体で共有することで、文章を多角的に「精査・解釈」することができました。最後に、作ったスライドをクラウドに保存することで、仲間の成果物が共有され、デジタルポートフォリオとして蓄積されます。「読むこと」での学びを、意見文などの「書くこと」の学習に生かしていくことが可能となるのです。

*3 リアルタイムで投票やアンケートの結果を可視化できるウェブ上のサービス。
*4 「平成二十三年度 全国学力・学習状況調査の問題を活用した授業アイデア例」(国立教育政策研究所)を参考にして実践した。

上越教育大学附属中学校教諭
岩船尚貴





図3 図2 図1

①「シンシュン」(二年)
 ベン図を用いて「発端」「山場」「結末」それぞれの場面における人物の心情を整理します。ベン図の中心部(円の重なる部分)はシユンタとシユンタの「そっくり(共通)」な部分です。中心部を追うことで、二人の「そっくり」の対象が「外見や好き嫌い(図1)から「気まずさ(図2)を経て「内面・心(図3)」に変わるなど、二人の心情(好意・葛藤)や成長・変化を可視化することができました。

②「ちょっと立ち止まって」(二年)
 本論の三つの図を位置づけたベン図(図4)を配付し、中心部(共通部分)に当てはまる言葉を考えさせました。ベン図に段落番号



図4



図5



図6

村上先生 のアイデア

ロイロノートのシンキングツールの活用で 読みのポイントを 「見える化」

岐阜県各務原市立桜丘中学校教諭

村上薫子



を記入した生徒は、中心部に「⑩(結論)」と書き、この結論には三つの事例全てが必要であることを見いだしました。他にも、「ちょっと立ち止まって」、「新しい発見の驚きや喜び」(筆者の主張)、「三つの具体例が図」(絵という共通の土台でわかりやすくする工夫)などの意見が挙がり、ベン図を基に交流することで、筆者の主張や論の構成、例示の工夫を実感できました。

③「蓬萊の玉の枝」『竹取物語』から(二年)
 発展的な学習として、五人の貴公子について調べ、人物像の可視化を試みました。まず、縦軸を「宝入手の難易度」、横軸を「地位の高さ」とし(図5)、五人のカードを動かしながら、地位の高い人ほど宝入手困難な宝を命じられたことをつかませます。次に、縦軸を「誠実さ」、横軸を「地位と宝の入手難易度」とした座標軸(図6)から、地位が高いほど不誠実な対応によって失敗していることに気づかせます。

生徒たちは、可視化された情報から人物設定のおもしろさを見だし、構成(順番)の意図に着目する生徒も出てきました。「竹取物語」の魅力により迫ることができたと思います。

久保田先生 のアイデア

録画機能の活用で 「話すこと・聞くこと」の 指導と評価がさらに充実

神奈川県川崎市立川崎高等学校附属中学校総括教諭

久保田聡子



「話すこと・聞くこと」の一单元あたりの時間のスリム化を図りながら、生徒一人一人の学習活動を保障するために、グルー



プレゼンテーションでの活用

ブ別の発表活動を一齐に行いました。その様子をタブレット端末で動画撮影し、指導と評価に生かしました。

撮影は生徒が行います。事前に撮影をする位置や映し方のポイントを指導しておきます。例えば、スピーチの場合、グループの中でペアになって、互いの様子を撮影し、撮影後にデータを指導者に提出します。

指導者は、提出された動画を使って視覚的に指導を行うことができます。生徒にとっては、メタ認知をしながら指導を受けることで、より改善を図りやすくなること

期待されます。

評価については、各グループを巡回しながら行いますが、提出された動画を視聴することで生徒の様子を再確認し、最終評価に生かすことができます。気になる部分については繰り返し視聴し、詳細に分析する

ことも可能です。

このように、撮影した動画は「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を見取るうえで客観的な評価材料として有効だと考えます。話し合いやインタビュー等の学習でも同じように活用できます。

なお、動画は個人情報であるため、その取り扱いには注意が必要です。個人情報流出を防ぐためにも撮影は発表者本人のタブレット端末を使用することを原則とします。話し合い等、複数で行う活動場面の撮影については、代替機を使うのが望ましいですが、難しい場合は生徒の端末を使用します。その際、データを個人保管しないよう指導します。また、指導者に対しても使用したデータは、適切に処理することを徹底します(年度末に生徒にデータを返却、もしくは許可を得て削除するなど)。



インタビューでの活用
(二人が映るように端末を設置)